

聖書の
エッセンス
やさしい聖書入門

Essence of
the Bible

台 Dai 豊 [著]
Yutaka

伝道出版社

はじめに

多くの人にとって、聖書は、「関心はあるが、あまり知らない」、そういう本ではないでしょうか。

そのような方のために、聖書のメッセージをわかりやすく、また奇をてらわずオーソドックスなスタイルで説明したい、そういう願いをもってこの本を著しました。

本書が、聖書に関心のある方々、集会などで聖書の話をおられる方々のために、少しでもお役に立てるなら幸いです。

どの章にも、それぞれのテーマを説明するための例話やエピソードが出てきますが、その多くは、聖書のメッセージをわかりやすく伝えるために努力を重ねられた先人の業績によっています。この教会の遺産ともいべき先達のご努力に、心からの感謝と敬意を表する次第です。

また、野城喜代治兄、斉藤玲子姉、吉井光子姉には、原稿に目を通していただき、貴重なアドバイスをいただきました。記して感謝を申し上げます。

最後に、出版の機会を与えてくださった伝道出版社のJ・B・カリー兄、そして本書の出版のために多くの労をとってくださった北嶋幹士兄に、心からの御礼を申し上げます。

二〇〇四年七月

台 豊

目次

- 第一章 うさぎ・ナナフシ・アインシュタイン——神について 7
- 第二章 こわれた水ため——人について 21
- 第三章 最も有名な人——イエス・キリストについて 46
- 第四章 上品？ それとも下品？——罪について 75
- 第五章 日曜日のできごと——キリストの復活について 104
- 第六章 ふしぎな本——聖書について 129
- 終章 おわりにひとこと 164

第一章 うさぎ・ナナフシ・アインシュタイン

—— 神について

皆さんは、「神」はおられると思いますか？

キリスト信者は、「神」の存在を当然のことと確信していますが、占いやお守りは信じません。

逆に日本の社会では、けっこうな数の人が占いを気にしたり、お守りをつるしたりするのに、「神」が話題になると、どういうわけか、とまどいを感じるようです。いわゆる「無神論」こそ冷静で科学的な態度である、と考える人も少なくありません。

無神論？

「無神論」について、作家の三浦綾子さんがおもしろいことを言っています。

はじめ、三浦さんはクリスチャンをとっても嫌っていません。そして

「私は無神論者だ。神を信じるなど非科学的だ。」

と言っていました。

ところがあるとき、ひとりのクリスチャンから、

「それでは、あなたの『無神論』とはどういうものなのか、ひとつ聞かせてください。」
と質問されて、答につまってしまったそうです。

その後クリスチャンになった三浦さんが、昔の自分と同じような「無神論者」にこの質問をしてみると、その反応も昔の自分と同じようなものだった、とある本の中で書いておられます。

あなたの「無神論」はいかがでしょうか。「神はいない」と考えておられる方は、ご自分の「無神論」なるものについて、どれだけ自分の頭を使って、突きつめて考えるという作業をされたでしょうか？ ちよつと胸に（頭に？）手を当てて考えてみていただきたいのです。

ひよつとしてあなたの「無神論」は、「神は目に見えない、耳に聞こえない。だから神はいない」というだけの、ある意味とても原始的なものではないでしょうか？ それ以上の考えをお持ちでしょうか。もしお持ちでないとするならば、しばらく「神」について聖書の語るところを聞いていただきたいのです。

新約聖書「ローマ人への手紙」から

新約聖書の中の「ローマ人への手紙」という書は、次のように語ります。

神の、目に見えない本性^{ほんせい}、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこ

のかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

(一章二〇節)

初めてこの節を読んだとき、私は少し反発を感じました。「弁解の余地はない」とは言い過ぎではないかと思つたのですが、そうお感じになる方も、おられるのではないでしょうか。

確かに、毎日毎日アスファルトの上を歩き、コンクリートの建物の中で仕事や勉強に追われていると、神の存在を感じさせることは少ないかもしれませんが、しかし、これからお話しするように、世の中の物ごとについて、面倒がらずに、普通に観察し、普通に考えるならば、やはり聖書が語るように、確かに「神の力と性質は、被造物において明らかに認められる」のであって、宇宙にあるもの、地上にあるもの、自然のすべてが、神の存在を示していることがわかります。

科学者と神

近代科学の創始者として有名なイギリスの科学者アイザック・ニュートンについて、おもしろいエピソードが残されています。

ニュートンは、腕の良い職人に依頼して、太陽系の精密な模型を作ってもらいました。ハンドルを回すと、金でメッキされた太陽のまわりを、水星、金星、地球、火星などの惑星が、それぞれの決まった速さと軌道で、本物の太陽系と同じように動く、実に精巧な模型でした。

ある日のこと、ニュートンの友人で神を信じない人がやって来て、その模型を見つけてとても感激しました。そのときのニュートンと友人の会話です。

友人

「実に精巧な模型だ。これを作ったのはだれ？」

ニュートン

「作った者などいないよ。」

友人

「(ニュートンが聞き間違えたと思い)この精巧な模型を作ったのはだれなの?」

ニュートン

「(マジメな顔で)だれが作ったわけでもないさ。ひとりでにでき上がったんだ。」

友人

「(少しムツとして)製作者がいないはずがないじゃないか。これを作ったのがだれなのか教えてくれよ!」

ニュートン

「君は、このおもちゃのような模型が偶然にでき上がったと言っても、信じてないんだね。それなのに、この模型のもとになっている正確で緻密ちみつな太陽系は、偶然の産物だと君は言っている。これはなぜなんだい?」

こうしてその友人は、宇宙を設計し、造られた方々神がおられるということを納得したそうです。

さて、ニュートンの時代以降も、いろいろな分野の学問が発達しましたが、はたして新しい発見は神の存在を覆したでしょうか。